地域連絡係からの一言

市町名	報告
加賀市	昨年度の研修にはアニマシオンやビブリオバトルなどが組まれました。又、新任の方３名を迎え、もう一度、分類・配架等に関する研修も行いました。 今年度、メンバーの入れ替わりはありませんが、中学校で大きく司書の異動がありました。一人職場の司書にとって学校を変わるということは、それまで自分の居た学校図書館がすべてではないという意味では勉強になったり、子どもたちにとってもそれまでとは違った目で選書が行われたりといい変化の一面があると思います。 一方で、蔵書構築の継続性を保ち図書館活動のレベルを維持し推進していくという面で適切な引継ぎと、司書のレベルの底上げが要求されると感じています。 そのための共通認識を深める研修ができたらと思っています。（司書）
小松市	小松市の学校司書は、昨年度中、出産のための退職者２名、転職などが５名、ありました。長年がんばってこられた司書とのお別れが多くあったこともあり、年度末はさびしさやら心もとなさやら、くやしさのようなものやら、でもどうにもできない無力感やら、いろんな気もちが押し寄せて、正直元気がでませんでした。 今はさすがに気分を切りかえてがんばらなくちゃと思っています。現場の忙しさはあいかわらずですが、今年は流されずに立ち止まって考えなさい、と、天の声が聞こえている気がしています。（司書）
能美市	昨年度の活動 ・能美市学校図書館司書　研究テーマ「選書と廃棄」の事例研究をし選書と廃棄Q&Aを作成。この研究をしながら各学校の状況や日頃の図書事務について話し合えたことが良かった。 ・他学校の視察(小松市) ・講師を招いての研修会「本の選書と廃棄について」講師：ほるぷ出版所長　西川一美氏 今年度の抱負・計画 ・今年度の研究テーマは「戦争・人権本リスト」改訂版作成。 研究テーマと並行して、読み聞かせやブックトークなど各司書の得意分野で司書同士の勉強会を実施。 ・他学校の視察・講師を招いての研修会の実施。
	その他 ・引き続き電算化の要求。 ・１１校の司書の悩み等を気軽に打ち明けられる環境になっており、研修時には司書同士コミュニケーションが図られていると思います。（司書）
川北町	昨年度は、町教委の指導主事と町立図書館の職員・学校司書で取り組みの情報交換と学校図書館の見学をする研修会をすることができました。 見学先では、校長先生・司書の方のお話を聞き、校内・図書館を見させていただきました。これまで、物事の見方・考え方が同じパターンになっていたので、こういった交流・見学を通して違った見方や新たなアイデアを得ることができました。とても、有意義な時間となりました。 今年度は、年に１回だった研修会を２～３回程度できればと考えています。（司書）
白山市	昨年度は１１月の北信越学校図書館研究大会で大勢の方に白山市の取り組みを見ていただきました。大会に向けてみんなの力が結集したことは大きなことだったのではないかと思います。学校図書館支援センターが毎月発行している「支援ンターだより」を読んでも、これまでよりギアが一段上がったような印象を受けます。 公共図書館と連携しての様々な展示や行事の紹介（美術部の読書感想画の展示・おはなし給食の紹介・松任地区中学生ビブリオバトル大会の開催 etc.）。第１０回となった調べ学習コンクールの応募作品が２０００点を超え、今年度のテーマの特徴として「ユニークな着想・それを自分の力でじっくり楽しみながら追及している（コンクールの講評より）」と紹介されていたこと。司書・司書教諭合同の研修会の報告。市内全小中学校でのおはなし給食の様子やそれを取り上げている新聞記事。数学科の取り組みの紹介。図書館振興財団の助成事業による購入資料の紹介。等々 一年分の便りを読むと、これまでこつこつ積み上げられてきた現場の取り組みが、目に見える形で一度に表に出てきたように感じられました。全国からの視察も、とても多かったようです。来られた方には今年もセンター業務を担当される大橋さんと森本さんのお二人が資料を用意して説明に当たられます。今年の重点目標は？とお聞きしたところ、助成事業によって全校に配布できることになった調べ学習コンクールの過去１０年分の入賞作品の複製を大いに活用してもらえるようにしたいとのことでした。今年も楽しく豊かな

	活動が展開されることを期待したいです。 　特筆すべきは、今春正規の学校司書が二人増えたことです。現場の頑張りを市がしっかり受け止めて下さっている表れと、喜び感謝申し上げたいと思います。これで正規職員は27人中15人となりました。今年はじめて、非正規の学校司書が１年間の育児休暇をとられていますが、代替えの職員が配置され、安心して育児に専念できることはとても大きいことです。けれど正規職員の場合の育児休暇は３年間が認められていて、まだまだ格差はいろいろなところにあります。 　教育委員会の学校図書館担当が、小川先生から斉藤先生に変わりました。また、元蕪城小学校長中條さんは、長く現場で学校図書館を引っ張ってこられ、北信越大会では大会長をされましたが、３月で退職されました。中條さんはこれまでも忙しい中、石川・学校図書館を考える会の世話人として、研修会などでも大活躍でしたが、今年からはさらに世話人パワーをアップして、早速HP作成などにかかわって下さっています。今年の６月２５日ユースパルの研修会の講師は中條さんにお願いしました。子どもたちと図書館への思いや知恵がたくさんある彼女の話を皆で聞きたいと思います。（市民）
野々市市	いよいよ、2017年秋に新図書館がオープンしますが、民間による施設管理運営となるため、期待と不安が入り混じっています。何より懸念されるのが学校司書の今後です。ＴＲＣの担当者に学校図書館との連携等を尋ねたところ、ノウハウは提供する、現司書の聖域は侵さないと。市側も今は基本設計のみで何も確定していない、４月から様々な話し合いが始まるとのことでした。2000年に７校３名の司書配置、翌年には非正規ながら７校７名となり、司書のいる学校図書館が定着しています。また、『ののいち読書ノート』（ののいち読書100選）の取り組みも４年目を迎え、子どもたちにも浸透してきました。(市民)
金沢市	昨年度に引き続き39名（2校兼務）のままです。小学校１校減により、今年こそ１校専任になるかと期待しました。しかし今年度から、勤務校１校と学校職員課に勤務する学校図書館アドバイザー兼学校司書が２名（昨年度学校図書館総括補佐１名）となりました。学校図書館アドバイザーは、新任司書のサポートや、各学校を回って、学校司書への指導助言を行います。要請があれば各学校のサポートをも行うとのことでした。1人職場である学校司書へのサポート体制があるのは、とても心強いと思いました。詳しくは「金沢に豊かな学校図書館を願うボランティアネットワーク」のface bookをどうぞ。（市民）

内灘町	司書の配置人数は昨年までと同様、中学校１校１名、小学校５校４名の計５名で担当しています。今年度は１名が退職し、それにともない１名が異動、１名の新しい方が入りました。新しい風が入り、今年度の図書室がどんな風に変わって行くのか楽しみです。また、月に１回行われている司書連絡会で連絡を密にし、わからないことを助け合い、良かった取り組みを広げていけるように話し合っていきたいと考えています。 　今年度から司書含めパート職員の労働条件についての取り決めが決まり、任期は最長３年となりました。現在のパート職員は今年度から数え３年となります。３年後には新しい方が大半をしめる可能性もあります。内灘町の司書には、まだマニュアルがありません。私たちの勤務時間は１日５時間と短く、夏休みなどの学校の休業日は勤務がつきません。そのため、マニュアル作成まではなかなか手がまわりませんでしたが、３年後に備えてマニュアルを作成していく必要性を感じています。大人達の都合で子どもたちの読書に影響のないように、考えていきたいと思います。 　現在小学校１校で蔵書冊数が学校図書館図書標準に達していません。逆に本が増え、棚数が足りていない小学校もあります。学校毎に課題はさまざまですが、今年度も子どもたちの読書や調べ学習、くつろぎの場となる図書室を目指し、司書一同、力を注いでいきたいと思います。（司書）
津幡町	・　今年度、中学校司書が育休のため代理、小学校２校で入れ替わりの異動がありました。 ・　津幡町は中学校２校は専任ですが、小学校は２校兼任（1人は3校兼務）が4年目になりました。勤務時間も短く（8:30～15:00）貸し出しの１番多い朝休みから、6限目までをカバーすることができません。 　いつも学校図書館には司書がいる、そんな環境が実現できるように働きかけていきたいと思います。 ・　作成中の高学年ブックリスト「ちいさなほんだな」は9月に配付予定です。その後は、中学校のブックリストに取りかかります。 　また、4月には読書の記録を残していく「わたしのほんだな」を配付しました。これは1年生から4年生が対象で、毎月23日のいしかわ学校読書の日などに、家庭や学校で読んだ本を記録していくものです。保護者、先生、司書がコメントを書き児童とのコミュニケーションを図るように努めています。1冊（20冊分）を達成した児童には、町立図書館から表彰状が贈られます。 夏休みには野々市市の学校図書館の視察を予定しています。今年度も町立図書館と連携し、がんばりたいと思います。能澤（司書）

かほく市	・今年度のかほく市の司書は、退職・増員・異動もなく、昨年同様、市内小学校６校・中学校３校を５名で勤務しています。身分は全員、市の嘱託職員で、１人は１小学校専任、３人は小中１校ずつ兼任、１人は小学校２校兼任です。中学校へは週に１日のみの勤務であるため、小学校からの読書指導がうまく継続できず、途切れがちになってしまうことが今後の課題の一つです。 ・「図書館司書研修会」は月に一度、公共との連携のもと、かほく市中央図書館学校支援室で行われており、司書の共通理解・能力研鑽に役立っています。昨年度は研修の中で「中学生におすすめの１・２・３冊」として、中学生に読んでほしい本、１２３冊を司書が選び冊子にしました。また、悩み別（家族・友達・部活・勉強や将来）の本を選び、紹介文やコメントを掲載し、「心の処方本」として気軽に手に取れるようにしました。今年度は、各校で使える「利用指導ワーク」（図鑑・百科事典・国語辞典）や、かほく市共通廃棄基準を作成する予定でいます。 ・また小学校だけではなく中学校にも、「かほくおはなしボランティアやまんば」さんに、朝読書の時間などで読み聞かせを実施していただいています。生徒も大変楽しみにしている時間です。 ・今年度も、公共・学校・ボランティアと三者、手を取り合って、子ども達のために前に進んでい ければと思っています。（司書） かほく市の学校司書の先生方とボランティアの交流の機会として、6 月 10 日（金）には食事会、8 月 27 日（土）には交流学習会を予定しています。学校でのおはなし会は、授業枠の中でのもの、昼休み、朝読と、いろいろな形がありますが、どんな形のおはなし会であれ、ボランティアとしては、おはなしの楽しさを子ども達に手渡せる存在でありたいと思っています。（市民）
七尾市	（こどもたちや市民の方から意見を伺いました） ・スペースがゆったりしていて開放的で明るく掲示物も季節感があり楽しい雰囲気。子どもと本の距離を縮めている。 ・司書の児童への声掛け、アドバイスは読書への関心を高めている。 ・司書の努力、工夫やその効果が見え、司書配置の重要性を感じ、ぜひ継続してほしい。 ・図書室は楽しくて大好きなところ。 ・司書の先生は本のことを教えてくれる楽しい先生。 ・図書司書の待遇を改善してほしい。研修の機会を増やしてほしい。 ・司書の重要性を感じると同時に、司書の待遇改善、研修の機会を多く、資格者の増員を望みます。（市民）
能登町	他の地域との差を知っていただきたく、子どもを持つ知人や学校の方にお便りを手渡しています（市民）
珠洲市	昨年度末に義務教育学校（小中併設校）が 1 校新設されたため、小中の学校総数は 1 校減となっています。学校司書 4 名の担当校配置換えも行われ、1 校専任(中学)の担当者も変更になりました。珠洲市は市長が地域に学校を残すことを市の基本方針として掲げているため、人口（1 万 5 千弱）の割に学校数は多い（小 7 校、中 2 校、小中併設 2 校）です。平成 30 年度を目標に市立図書館の新設も決定していますが、これを機会に公共図書館と学校図書館の連携のあり方を熟考し、よりよい方向へ進んでいくことを期待しています。 昨年度は「図書館大好き　わたしとあそんで@すずのと」第 2 回交流学習会に協力し、元野洲図書館館長（滋賀県）の千歳則雄さんの講演会を実施。奥能登の会員も 6 名以上参加し、大変有意義な時間を過ごすことができました。（市民）